

The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。

地域に愛される会社でありたい。

これは今も昔も変わらない、長浜セレモニーの根幹となる想いです。

私たちが目指すのは、

お葬式を執り行なう“業者”としてのお付き合いではありません。

お葬式だけでなく、地域の催しでも皆様から必要とされるように。

長浜セレモニーに関わるすべての方から

「おかげさまで……ありがとう」と言ってもらえるように。

ご家族・地域の皆様の「気持ち」に寄り添う、

ライフパートナーでありたいと思っています。

100人いれば100通りの人生があるからこそ、

どれもが「世界に一つだけのご葬儀」に。

お集まりいただいたすべての方が、

故人様の思い出を分かち合い、生きた証を心に刻めるよう、

一人ひとりの想いを形にしたお葬式を実現いたします。

手間暇を惜しまず、人生最後の「ありがとう」をお手伝いを。

地域でのご縁を大切に、

社員一同「こころ」を込めてご奉仕させていただきます。

心のこもったあたたかいお葬式を届ける



長浜セレモニー株式会社
サポート部 課長

最後のお別れを、全力で。

長浜セレモニー 家族葬の♡ウィズユー宮前



心のこもったあたたかいお葬式を届ける

私たちは常にお客様に満足いただける企業として感謝の「こころ」でご奉仕します

私たちは常に「こころ」から愛される企業として地域社会に貢献します

私たちは常に尊敬と愛情と信頼で結ばれ「こころ」をひとつにして協力の精神で社運の発展に努めます

お客様に安心と満足をご提供し、地域に愛される会社でありたい



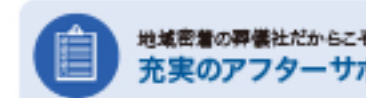
地域の事情に精通した
地域密着の葬儀社



お葬式の費用を1円単位で見積り
明瞭価格で安心のプラン



ご縁を大切に
心をこめたいご提案



地域密着の葬儀社だからこそできる
充実のアフターサポート



葬儀社協付 (JECIA)
最高評価5つ星を獲得



たくさんのありがとうをいただいた
お客様の声

■式場一覧

家族葬の♡ウィズユー高月



滋賀県長浜市高月町
柏原396-1
パワーズせん斜め向かい

長浜市

長浜式場



滋賀県長浜市加納町
341-5
長浜ICより車で3分

家族葬の♡ウィズユー宮前



滋賀県長浜市宮前町6-4
旧国道8号線沿い

米原市

家族葬の♡ウィズユー近江



滋賀県米原市願戸632-4
願戸南交差点角

葬儀のことなら何でもお気軽にお問い合わせください



0120-09-8395

通話無料

365日24時間受付

会社名 長浜セレモニー株式会社
本社所在地 〒526-0804 滋賀県長浜市加納町341番地5
TEL 0749-64-3415 FAX 0749-64-3416
代表者 代表取締役 松村隆雄
設立 2001年7月

ホームページはこちらから▶▶▶
<https://nagahama-ceremony.com/>



最後のお別れを、全力で。

ご葬儀は、故人様と過ごす最後の時間。故人様のお顔や手に触れること、髪をなでることも、そこにお体があるからこそできること。だから「最後のお別れの時間」に悔いなく真っ直ぐ向き合ってほしい。

ご葬儀とは故人様を弔うために行なうもの。それと同時に残されたご家族のためでもあるのです。照れくさくて言えなかったこと、心からのありがとうの思い。伝えたいこと全部！言葉にして声に出してほしい！

そんな想いを胸に、現在はサポート部の課長、終活カウンセラーとして活動。ご葬儀の中ではご家族やご住職様とお打合せ、お式全体の進行管理をしています。

私が葬儀業界へ転職するきっかけとなったのは、祖母のお葬式でした。急なことで最後に会うことも叶わず、泣くことしかできなかった私にスタッフさんが「大丈夫。おばあちゃんはまだしんどくないよ。いつものように話しかけてあげてね」と、優しく声をかけて下さって……。その言葉に心が救われたのを覚えています。

そこから月日が過ぎ、子育ても一段落して転職を考えたとき、ふと祖母のお葬式でのことを思い出しました。「私も、やってみたい!!」その気持ちが強く湧いてきたのです。

初めて経験する葬儀の仕事は、当然ながら、うまくいくことばかりではなく……。

入社して間もない頃。大切な方を亡くし涙が止まらないお客様を目の当たりにしたとき、「ああ…祖母を亡くしたときの私のようにだ」と思いました。

自分も同じ立場にいたはずなのに、どう声をかけたらいいのか、どんな言葉を選ぶべきなのか、わからなかったんです。悔しかったです。ただ、それだけでした。

そこから私は、語彙力や葬儀の知識、対応の引き出しを増やすために猛勉強を始めたんです。終活やカウンセリングについての本、先輩方の所作、お式での動き方、お客様にどのよう声をかけたのか、何を話したのか……すべてメモをとりました。

特に、ご住職様のお話の中で「人は亡くなっても耳は最後まで聞こえる、しっかりとありがとうと伝えなさい」という考え方を聞き、感銘を受けました。

そこからご葬儀でお別れの案内をする際、念入りにお伝えするようにしたんです。この場が、お顔に触れ声をかけられる最後の時間であることや、お棺のお蓋を閉じる際、感謝と労いの声で棺の中をいっぱいにしてほしいこと……。

本当に最後の時間。

どうか、泣くことを我慢しないで。言葉をかけることを恥ずかしいと思わないでほしい。

お客様に対して私たちができるのは、お別れに集中できる時間やきっかけをつくること。

祖母を亡くしたとき、葬儀社の方が作ってくださった最後の時間に救われたから。大切な人の死を受け入れ、区切りをつけられたから。私も、お客様にそうして差し上げたいんです。

これからも限界を決めず、「もつとできることがある」という気持ちで、「最後」と向き合うお客様に寄り添い続けます。



The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。